

大合併教室

入江直樹 Naoki Irie
滋賀大学教育・学生支援機構 / 特命教授

主戦場

授業収容人数462名、17段の階段状の大きな教室、これが私の主戦場である大合併教室です。この教室で2018年春学期からキャリアデザイン論を担当させていただいております。全学共通科目（リベラルアーツ科目）クリエイティブ・スタディーズ分野（1～8セメスター）に属する講義で、合格した学生には2単位が付与されます。木曜日の5限、16時10分から17時40分までの90分が私に与えられた時間です。この教室は左右に大型スクリーンがあり、そこに資料を投影しながら講義を進めます。ここでのキャリアとは単に職業選択に限定されるのではなく、一人一人の生き様の中でどのように仕事に関わっているのかについて学ぶ講義です。キャリア教育とは一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育であると考えられてもおります¹⁾。ここでは自らがこれまでの時間を振り返り、様々な出来事を理解してこれからの人生の糧にできる、そんな場面を提供できればと考えています。受講者の多くは入学間もない一年生が中心です。大学受験を中心に勉強に励んできたことを思い出して整理して、これからどう生きていくか、何を学ぶのか、などを見つけ出すことができればこの講義の役割は果たせると考えます。

履修相談会

ここ滋賀大学彦根キャンパスでは毎年4月に新入生に対して多くのクラブ、サークル、同好会が勧誘活動の一環で履修相談会を開催しています。その相談会では「この先生は気難しい」「この先生は絶対にお勧め」など学生ならではの解釈で新入生に受講する

講義選択方法を伝授します。その際に私の講義が積極的に一年生に薦めてもらっているそうです。「出席さえすれば単位もらえるよ」「カモ単だよ」とのことです。また主に学生が投稿する授業評価サイト（みんなのキャンパス：(株)楽天）でも「だれでも通る」「楽です」「出席すれば大丈夫!」などと書き込まれています。それ以外のサイトでも「楽勝!」「絶対とるべし」などと書かれているようです。若干凹みますが、これが学生の評価、と考えるようにしています。単位付与のラインを極端に下げているわけではなく、自らのキャリア形成に必要な知識、事例を理解して、自らの意志でキャリア形成に臨めることができればこの講義の意味はあります。それを試験で確認して、確認できた者に単位を付与しています。シラバスにも記載していますが、講義に出席すれば理解できる、そうなるようにデザインした講義形成を目指しています。このような学生たちのおかげで講義会場が毎年大合併教室となり、毎回400名以上の学生が出席してくれています。

三層構造

大合併教室の構造は比較的なだらかな傾斜状に施されており、教室には教壇があり、そこから学生を見ると、学生が3つの層（グループ）に分かれているように感じます。前から10列くらいまでは目線が上から目線となる第一層、その先は私と同じ高さの目線の間層の第二層、そして後方側は私が見上げるような目の高さとなる第三層、となります。教壇から見ますとこの3層はクリアにはっきりと分かれています。毎回400名ほどの学生がどの層も均一に座っています。第一層の学生からは下から突き刺さるような視線を感じます。左右両端の学生は体の向きを変えてまでこちら

1) 文部科学省リリース「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」2010/5/25
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf (20240708 閲覧)

を見てくれています。この層の学生はいかなるテーマでも聞いてくれているなと感じます。

第二層の学生は目線が正面となりその表情が一人一人ははっきり見ることができます。この層は話の内容、学生目線での面白さで姿勢、態度が変わります。こちらは受け狙いで話しているわけではないのですが、彼らの様子から、今日は面白くないのかな、すべったのかな、などと考えてしまいます。毎回この第二層の正面には頷きながら話を聞いてくれる学生が2~3人います。彼らの頷きは話す私にとってメトロノームの役割を果たします。うんうん、と言ってくれているようで、こちらは、いい感じ!とリズムに乗ることができます。私は講義での話すテンポはどちらかというと早いほうなので、彼らの頷きは早口すぎることを予防してくれる役割も果たしてくれています。

第三層の学生からは見降ろされているので試されている、評価されている、そんな気がします。最後部には二か所の出入口があり、講義中でも出入りがあります。早めに出ていかれると、あれ、もう帰るの?面白くなかった?と感じます。特に一番後ろの席の面々は自

由気ままに自分のペースで講義に参加しているようです。いい加減にしろよ!と言いかけたときもあるのですが、40年ほど前に私も同じように最後部の席でブラッと講義に参加して途中で出ていったことが多々ありました。自分もやっていたからなあと思い、出ていきたくない、もっと聞いていたい、と思えるような内容にしなければいけない、と思い直す毎日です。

新たな戦場へ衣替え

大合併教室は近々リニューアルのための工事期間に入ります。そのため今の教室で講義を行うのもあと僅かとなりました。16時10分にチャイムがなり、そこから話し始め、第一層から第二層、そして第三層から順番に視線を感じる、この一体感がたまらなくいいんです。そのためにしっかりと準備しよう、新しいネタを仕入れよう、伝え方を変えよう、こんなことを考えられるのは教員冥利に尽きるのでしょうか。今日はよかった、今日はダメだった、と振り返りながら、学生と共にこの戦場で時間を過ごせたらと思います。

